

# 学びのR

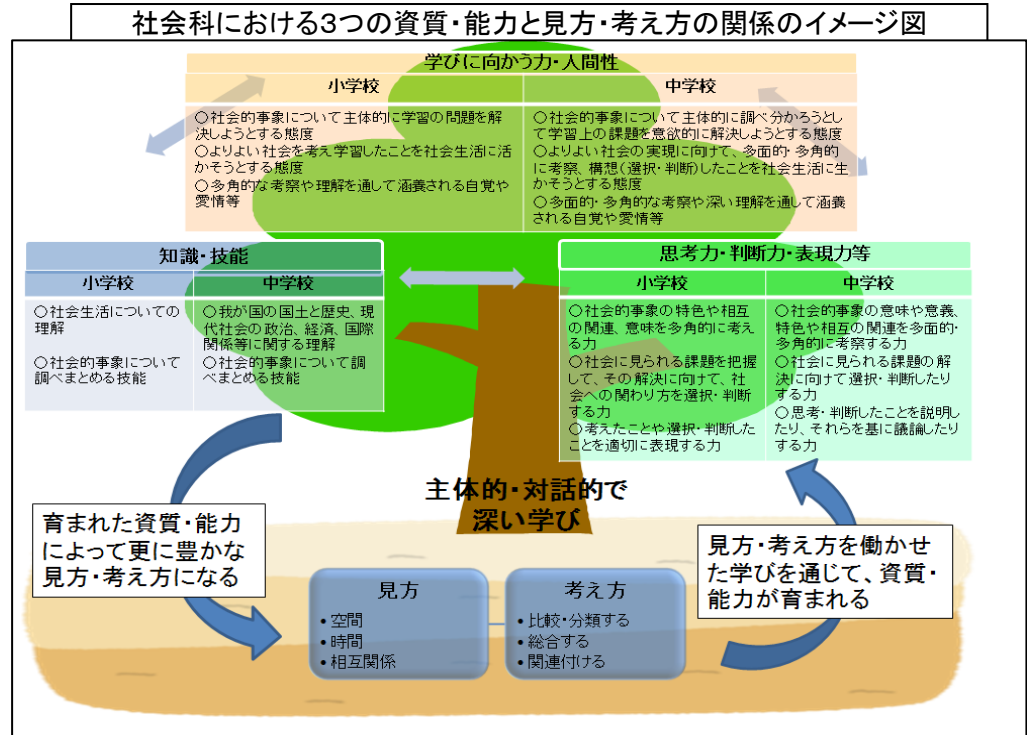
No. 16 (平成31年3月)  
 埼玉県教育局南部教育事務所  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

## \*\*\* 「主体的・対話的で深い学び」で授業改善⑥ \*\*\* ～社会科の学習指導の充実～

\* 今回は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、社会科の授業改善を考えます。

新学習指導要領において社会科では、課題として「主体的に社会の形成に参画しようとする態度」が不十分なことが挙げられており、「主体的に社会の形成に参画するための力」の育成が強く求められています。そのような力を育成するために、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動」いわゆる主体的・対話的で深い学びの実現を通して、社会科の授業を展開することが、より一層求められています。



### Q：社会科における見方・考え方とは？

	小学校	中学校		
	社会的な事象の見方・考え方	社会的な事象の地理的な見方・考え方	社会的な事象の歴史的な見方・考え方	現代社会の見方・考え方
(視点)	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目する	位置や空間的な広がりに着目する	時期や推移などに着目する	政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論)に着目する
(方法)	比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりする	地域の環境条件や地域間の結びつきなどの地域の枠組の中で、人間の営みと関連付ける	類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付ける	よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付ける

児童生徒が「見方・考え方」を働かせることができる活動の例

#### 【地理的な見方・考え方を働かせる】

・空間の特色を意味付けたり、空間同士を比較したり、関連付けたりするために地図を活用する活動

#### 【歴史的な見方・考え方を働かせる】

・出来事の前関係や因果関係、変わっていくものと変わらないもの、時代の転換点を考察する、日本と世界の同時代史的な比較や関連を考察するために年表を活用する活動

#### 【現代社会の見方・考え方を働かせる】

・人と人、人と物、人と制度、制度と制度等の関係を考察するチャート、ベン図、ウェブ図、マトリクス表、グラフなどの図を活用する活動



**見方・考え方を働かせる視点からの授業づくりの工夫の例**

学習課題を自ら見出す場面において

- 目指す児童生徒の姿 ○学ぶことに興味や関心をもっている
- 課題を自ら見出し、解決の見通しを持っている

(例) 中学校第2学年「日本の諸地域～関東地方～」1 / 5時  
～埼玉大学教育学部附属中学校 内藤圭太先生の授業～

- (1) 授業のねらい 東京オリンピック・パラリンピックの競技会場と他国のオリンピック・パラリンピック会場を比べることを通して、関東地方を学習するための学習問題を主体的につくることができる。
- (2) 展開
  - 1 学習するための動機付けとなる写真をスライドで見る。【(例) 観光地・名産品・雨温図・地形等】
  - 2 各国のオリンピック・パラリンピック会場の資料から特色を読み取り、発表する。
  - 3 2の学習活動をもとに、東京オリンピック競技会場一覧と比較し、気付いたことをグループで話し合う。

「リオや北京のオリンピックの競技会場はどのように分布しているだろう?」  
(位置や空間的な広がりに着目し事象を捉える)

「リオや北京のオリンピックの競技会場と東京オリンピックの競技会場の分布を比べるとどのような特色があるだろう?」  
(位置や空間的な広がりに着目し、比較する)

教師のしかけ ○地理的な見方・考え方の一つである「分布」に着目するように問う。  
○地図を活用した資料を作成し、地理的な見方・考え方を働かせる工夫をする。

**4 資料をもとに話し合い、分かったことから、単元を貫く学習問題をつくる。**

「なぜ九州や近畿ではなく関東地方なのか?」

「他の地方にはない関東地方の魅力は?」

「関東地方の会場が密集しているのは自然環境が原因か?」

「なぜ、オリンピックの会場を関東地方だけで収められないのか?」

「他の地方にはない関東地方の魅力とは?」

「関東地方を学習するための学習問題をつくらう」

【単元を貫く学習問題】なぜ、関東地方を中心に東京オリンピック・パラリンピックが開催されるのだろうか?

教師のしかけ ○地理的な見方・考え方の一つである地図上の「分布」を比較することで東京オリンピックが東京都だけでなく、関東地方を中心に開催しようとしていることに疑問を持つようにする。  
○子供の言葉に価値付けしたり、キーワードに着目したりしながら意味付けるとともに、子供の言葉をつないで課題を設定する。

**5 単元を貫く学習問題の初めの考えを記入し、発表する。学習の見通しをもつ。**

新学習指導要領で重要とされていることは、資質・能力の育成です。社会科においては、公民としての資質・能力を養うことがねらいとなります。社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して資質・能力の育成を目指す授業は、先にゴール（その時間、その単元の最後に実現を期待する子供の姿）を定め、次に実現状況の判定の仕方（どのような方法でいつ評価するのか）を決め、最後に展開（ゴールを達成するためにどんな教材を使って、どんな活動を工夫するか）を意識して授業することと言えるかもしれません。

期待する子供の姿を具体的に描くことから授業づくりをはじめてみませんか。

引用・参考 「小学校学習指導要領解説 社会編」、「中学校学習指導要領解説 社会編」 文部科学省  
「小学校 新学習指導要領 社会の授業づくり」 澤井陽介 明治図書  
「中学校 新学習指導要領 社会の授業づくり」 原田智仁 明治図書  
「第56回全国小学校社会科研究協議大会 埼玉大会 研究要項」